

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2014年4月1日

127号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



パラグアイ川で、スルビ（タイガーショベルノーズキャットフィッシュ）を釣り上げた堀本氏

スルビが釣れた！



真剣に釣りに挑戦する水落氏と堀本氏

真冬の日本から猛暑のレダに來たので、体調を慣らしながら、中田所長から様々な研修を受けています。

第一は伝統的な修練としての釣りに挑戦、水落、堀本両氏ともドラドやスルビ、パクーを釣り上げて大感激でした。

水道水作りも浄水場で担当者から研修を受けました。パクー養殖や養豚などの研修も始まるでしょう。その内に、水落さんの専門職である大工仕事も始まると思われます。技術と経験のあるシニアは、まだ機械や電気関係、養殖、農業関係など求められています。推薦も含めて、関心のある方は事務局にご連絡ください。（飯野記）

パンタナール一日研修会開催

三月二日、川崎市の大山街道ふるさと館にて、パンタナール一日研修会が行われ、六十一名の参加者で盛会でした。参加者の感想文も含めて、関連記事は三面をご覧ください。

大雪のため空港で一晩を過ごし、成田を二月十日に発ってアスンシオンに向かった二人のシニアは、遂に二月二十日、ミリタリー機に乗って、バイアネグラ経由でレダ入りしました。この一ヶ月は、

豪雨で試練の連続

大切な稚魚を守り育てるための奮闘の日々

ました。以下、中田所長が過酷な環境下で奮闘しながら伝えてきたレダ基地の近況です。

レダ基地近況 三月十二日

「昨夜は九時頃、一時間に一〇〇ミリの大雨が降り、池の水が溢れて稚魚が逃げ出すところでした。トロパンパでは二〇〇ミリだったとか。異常気象です。かろうじてポンプで池の水を汲み出し、危機を脱しました。放流式典をするにも、稚魚がいなくなれば、元の木阿弥、打つ手がなくなります。しかし連日の豪雨で、稚魚にとっては難敵である水の酸性化や、有害な緑色藻が大発生したり、試練は続きます。

池に石灰水を撒いて中和させたり、新しい水と入れ替えたり、ポンプを扱えないとできませんから、慣れた人でないと対応できません。魚を担当してきた上山、青木の両氏が留守のため、池の水の管理も目が届かなくなりがちです。

また魚の成長度合いに応じた餌の調整も手が抜けがちになります。稚魚の成長に合った餌が与えられないと、稚魚はいつまでも小さいままです。手がないところに更に病人が出たというので、ケアをし、エスペランサにボートを出して送り戻したり、



完全養殖に取り組むレダ基地の中田所長

雨でしばしば停電になり、モーター機器が動かなくなつて、そんな時に限って発電機が故障したり、次々と試練がやってきます。上山、青木両氏もアシシオンにいながら、雨天で飛行機も車も不通で足止めをくっています。両氏のレダ入りを待ちわびています。とにかく放流式典にゲストを沢山招くためには、アシシオンからも、時に日本からも対応してくれる助け手がいらないとどうしようもありません。非常に重要な式典なので、何とか成功させられるよう、最善を尽くして踏ん張ります。」

悪天候でインターネットによる交信が困難になっているレダ基地の中田所長と、連絡がやつと取れ

必死な姿が目には浮かびます。すぐにも飛んでいって手助けしてあげたいところです。中田所長の真剣さを、私達ひとりひとりがしつかり共有すれば、放流式典は確実に勝利するでしょう。皆で真剣に支援をしていきましょう！ 感謝 飯野

レダに着任した新人シニアたちより

★水落 日本からレダまでは、ほんとうに遠いなあと実感しました。自分はオリンポに行った事があるので、自然に対してはそれほど違和感を感じませんでしたが、飛行機から見た無限に続くヤシ林がロウ椰子だけで、ココ椰子が無いのが不思議であり、残念でもありました。

レダの建物のすごさには驚かされました。まさか、こんなに大きく立派な建物が準備されているとは思いませんでした。建築家の自分も信じられない思



楽しい食事の時間。左より、中田所長、水落氏、堀本氏

いです。また、こんな少人数の日本人で管理、運営が行われているという事実も驚きでした。

やはり、レダで滞在して活動するには体力が必要であると、強く実感しました。日中の暑さと、蚊の攻撃は半端ではありません。しかし日本では考えられなかった研修の機会を与えられて感謝しています。朝は釣りに集中して自然世界の中で、色々な事を体験できました。インディヘナの生活ぶりも見てみたいと思っています。

★堀本 レダは、創造本然の万物のある世界であり、本然の自分を見出せる場所だと実感しています。釣りを体験したことの無い自分が、ドラドやスルビという本格的な魚を釣ることができ、釣りの醍醐味といったものを少し実感できて、釣りが自分の趣味のひとつになったかなと思います。

日本の映像で紹介されたレダの世界と、現場で体験する世界は、大きな差があると実感しました。日照りの厳しさ、空気、蚊の悩ましさは体験してみないと分かりません。しかし、環境には少し慣れてきたかなと思っています。夜はドラマを見て学ぶ時間もあります。中田先生が悟って欲しいと願っている、困難に挑戦して克服してゆく世界がより身に迫って感じられます。レダ開拓に対する心構えを学ばせていただきました。そのようなユニークな研修の期間を与えられて感謝しています。養豚の活用法に関しては、まず焼き豚作りから始めたいと思っています。

パンタナール一日研修会

今回は、レダにおけるプロジェクトが幾多の困難に打ち勝ち、前進的發展をしてきているので大きな希望を与える内容となり、研修会に参加した一人一人に理想に向かってのしつかりとした方向性を示すものとなりました。講師の方々、この研修会のため力を注いで下さった皆様そしてスタッフの皆様にご感謝しつつ以下に幾人かの参加者の感想文をご紹介します。(吉本)

★皆さんが南米で活動されていることは知っていました。最初は様子から今までの活動を聞いてすごいいいと思いました。実際現地でも歩まれた方の話は生々しく、又その活動が世界の環境と世界平和にもつながる道だと知り希望を感じています。これからどのように貢献できるか考え始めたいです。(47才女性)

★素晴らしい研修会に参加させていただき有難うございます。レダのことは今までうわべしか知らず、危うく見物人で終わるところでした。これから遅ればせながら正視してまいります。(男性)



パンタナール一日研修会 (3月2日、大山街道ふるさと館)

★パンタナール開発の話は感動的で、具体的に目に見える結果が出ているので希望を感じます。(40代女性)

★本日は自分の人生が変わる一日になりました。このセミナーを聞いて、本当に地域のため、国のため、世界の為にグローバルな活動を展開していることを知りました。

第一回環境問題学習会を開催

三月八日、大谷先生を迎え、「統一思想から見た環境問題」と題した学習会を開催しました。講演に続き質疑応答と意見交換が行われ、私たちが今後どのように環境問題に取り組んでいくべきか、活発に討議しました。



環境問題額集会 (3月8日、川崎市高津市民館)

自然を通して人生と宇宙の普遍則を学べることから、「自然を愛そう。自然から学ぼう。自然に感謝しよう。自然と共生しよう。」という精神を掲げて、環境問題に取り組んではどうかという意見などが出されました。月一回のペースで今後もこのような学習会を進めて行こうという事で、次回は四月五日(土)を予定しています。

来日中の佐野氏にインタビュー



報告する佐野氏

レダ基地で担当していることは？ 牧畜、及び外活動一般です。牧畜は、現在九五七頭の牛がいます。(公式な登録数) 対外活動は、周辺の村からの要請などへの対応、援助の計画作り、青年奉仕隊を迎える村での準備、警察や海軍、地方政府との対応などです。最近では私たちの土地を不正に横取りしようという動きがあるので、レダの領地の周囲に囲いを造ったり、法律問題などを弁護士と交渉したりもしています。

最も苦心した事は？ 牧畜に關しては、やはり信頼できる人の確保です。現在は順調に牛の数が伸びていますが、

それは信頼できる牧童たちが定着したことが大きいと思います。

対外活動では、周辺の村々からの要請が多くありますが、すべて応えることは民間団体として予算の制限があるので不可能です。多くは断らなければなりません。良好な関係を保ちながら、どのように断っていくかは課題です。

日本滞在中にしたいことは？ かつて交流のあった人々への訪問と報告、啓発、そして子供との交流、親族との交流などです。

日本の方々へひとこと

今後レダが未来に進むためには、家庭が移住して来れる基盤がどうしても必要です。そうであれば永続性がないからです。そうなれば、レダは自動的に継続して発展していくと思っています。そのための経済基盤づくりがどうしても必要です。それ故に、レダが盤石な基盤を持つまで変わらぬご支援をお願い致します。また、常に人材不足に悩まされております。多くの優秀な人材を発掘してくださるよう、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

養豚を担当した、坂井さんの報告



坂井さん

私は、初め豚についてきれいなイメージは持っていませんでした。子豚はとても可愛いのですが、大きくなった豚は違うのです。中田所長は、豚が人を癒すことをはじめ、豚の良さをいろいろと語られ、豚の名誉挽回をしなくてはと教えていただきました。私も様々な豚を観察し、飼育や繁殖の研究をして行く中で、生きた豚たちを愛する努力をしました。そして気がつく、豚をわが子のように可愛く思うようになっていきました。そんな豚も屠られる時が来るのですが、それも受け入れて愛し育てる意味が分りました。



第14回国際協力青年 ボランティア隊員募集開始



南北米福地開発協会では、日本の若き青年指導者たちが、海外における奉仕活動やグローバルな体験を通して、社会奉仕や異文化の理解と学びの機会が得られるよう、国際協力青年ボランティアを下記のように企画致しました。

期 間：2014年8月25日（月）～9月10日（水）

8/24（日）：オリエンテーション・研修を行います。8/25成田発
後日、参加者にスケジュールの詳細を通達。

活動場所：パラグアイ、パンタナール地域

活動内容：サンカルロス村で学校の建設と共同植樹活動及び文化交流、
レダにて奉仕活動、自然探訪、学習会、乗馬、釣り体験

参加資格：18歳以上25歳まで（原則として）（健康に自信のある男女）

参加条件 ①小論文（400字以内）提出 テーマ：「参加の動機及び将来の夢」提出期限：6/30
提出先：南北米福地開発協会（FAX、Emailも可）②小論文に各紹介者の推薦文を添付す
ること（書類は事務局にありますのでご連絡ください。）

合格発表：7月5日 直接該当者に連絡致します。

募集人数：10名（日本から） アメリカ、南米から各数名ずつ。

参加費用：15万円 成田ーアスンシオン往復航空チケット代は主催者が支援いたします。
（小遣い、家から成田までの往復費用などは個人負担）

申し込み及び問い合わせ先：南北米福地開発協会事務局 担当：柴沼まで

TEL：044-829-2821 FAX：044-829-2820

Email：office@asd-nsa.jp



南北米福地開発協会事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話 044-829-2821

FAX 044-829-2820

会費納入 郵便口座

10180-77680471

Eメール：office@asd-nsa.jp

ホームページ：http://www.asd-nsa.jp

地球家族として、自然を守りましょう

南北米福地開発協会会員募集中

南米、パラグアイ・パンタナール地域へのエコツアー、ならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。会費は月500円です。

毎月、パンタナール通信をお送りいたします。また、各種のセミナー、エコツアー等へのご案内をいたします。